

WAKUWAKU 10 年のヒストリー



認定NPO法人

豊島子ども

WAKUWAKU

ネットワーク

2023 年 2 月 5 日

地域を変える／子どもが変わる／未来を変える

池袋本町プレーパーク

2004年に豊島区区制70周年事業で屋外の遊び場「池袋本町プレーパーク」事業がスタートしました。豊島区主催のプレーパーク立ち上げワークショップに参加した栗林は、任意団体「池袋本町プレーパークの会」の代表に担ぎ上げられ、長年地域活動に携わる山本道子が副代表に就任し、ほか監査2名、合計4名の小さな団体が誕生しました。

A君との再会から

■2011年

2011年秋、栗林が中学3年生A君に高校受験のサポートをしたことが、豊島子どもWAKUWAKUネットワーク（以下WAKUWAKU）設立のきっかけです。プレーパークに遊びに来ていた中学3年のA君と、夜の9時ごろ、スーパーの前でばったり会い「高校に行けるかどうかわからない」というつぶやきを聞いてしまいました。現在のWAKUWAKU事務局の部屋にて無料学習支援「モンブラン塾」が始まりました。

■2012年

この受験応援に際し、カンパを集めることになり、約100名の地域の方からカンパが集まりました。A君のためにカンパを寄せてくださった方々に声をかけ、2021年6月24日にA君の受験報告会を兼ねた豊島子どもWAKUWAKUネットワーク設立シンポジウムを開催しました。参加してくださった100名余りの方たちに地域の子どもを支援する仲間になってほしいと呼びかけ、メーリングリストを立ち上げました。この緩やかなつながりがWAKUWAKUの原点です。

豊島区で不登校・ひきこもり研究所という団体を立ち上げ、支援活動をしていた天野と、池袋本町プレーパークの活動に参画してきた栗林が出会い、「子どもの貧困」をはじめとする困難を抱える子どもたちの未来を明るく変えていきたいと願い、「豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」が誕生しました。

A 君は、小学校低学年のところで勉強につまずき、だれにも相談しないまま、高校受験で苦勞しました。

『学校はなぜしっかり教えない？』『親はなぜ宿題を見てやらない？』と文句を言うより、集会室を借りて、小学生も来られる学習支援をやりたいね」そんな思いから、2013 年 2 月、池袋第二区民集会室での無料学習支援「池袋 WAKUWAKU 勉強会」がスタートしました。石平理事が担当しています。勉強を教えるだけでなく、困ったことや悩み事も話してくれるような関係づくりを大切にしています。

■2013 年

また A 君について、毎日 500 円で好きな時間に好きな弁当を食べる暮らしをしていたことも知りました。「家族みんなでご飯を食べるなんて気持ち悪い」そんな A 君の言葉から、手作りのあたたかいごはんを家族で囲む機会がない、孤食の子どもたちがいることを知り衝撃を受けました。

一方、要町に住む山田さんは、亡き妻がパン屋を営んでいたころのように、自宅を人が行き交うにぎやかな場にしたいと思い、「うちで子ども食堂をやりたい」と WAKUWAKU の集会でつぶやきました。山田さんのつぶやきに応えるように、地域の仲間が集い 2013 年 3 月、ワイワイがやがやみんなでご飯を食べる子ども食堂「要町あさやけ子ども食堂」が誕生しました。

2013 年 8 月 NPO の認証を取得しました。

豊島区は、小学校新校舎建設予定地を暫定利用するという計画で池袋本町プレーパークを 2003 年から 10 年間限定で開設しました。10 年間の活動を通じて、プレーパークは子どもの遊び場であり、居場所であったため、活動中止ではなく代替え地でのプレーパークの存続を豊島区に懇願していました。豊島区はそれに応えるべく空き家 3 軒が立ち並ぶ土地を買い取って、常設のプレーパーク開設の検討を進めました。そのため「池袋本町プレーパークの会」代表の栗林、副代表の山本道子が WAKUWAKU の理事を担い、新天地での池袋本町プレーパークを継続運営できる体制づくりをすすめました。

2014 年春から空き家解体・整備を経て 2014 年 11 月 16 日に現在の池袋本町プレーパークがオープン。2014 年度は豊島区からの補助事業、2015 年度からは委託事業として運営して今に至ります。

外国籍の子どもが多い池袋小学校で「にほんご教室」の教員を務め、退職された B 先

生から「学校内の日本語指導では十分でないため、今後は地域で外国籍の子どもへの日本語指導をしたいが、地域でどのように活動していいかわからない」という手紙が届きました。早速、B先生を招き「池袋 WAKUWAKU にほんご教室」として8月、池袋 WAKUWAKU 勉強会と同じスペースで、にほんご教室を同時開催することになりました。

●おせっかえる誕生秘話

2013年秋、「おせっかいバッチ」大作戦！というおせっかいの啓発イベントを実施しました。豊島区内の小学校に「おせっかいバッチのデザイン募集」のチラシを配布したところ、デザイン画が150点ほど集まりました。厳正な審査で選ばれたイラストを缶バッチにして、配布しました。

2位に選ばれたピンクのカエルのデザインは、子ども食堂に通う女の子のデザインで、後に WAKUWAKU のロゴになりました。「おせっかえる」の誕生です！

※“おせっかえる”・・・おせっかいをされた子は大人になっておせっかいを返すので、“おせっかえる” 口元には子ども食堂のごはんつぶ、ピンクの“おせっかえる”からは、おせっかいの芽が出ているそうです。

■2014 年

2014年11月には、「夜の児童館」をオープンしました。夜間保育のある保育園は22時まで預かってくれますが、小学校に上がると学童は18時で終わってしまいます。仕事で親の帰りが遅い家庭は、本当に困ってしまいます。そんなご要望にお応えして、孤食の子ども限定、定員10名以内で始めました。会場は金剛院の住職様が蓮華堂の施設を無償で提供してくださいました。登録制で同じ子どもを同じスタッフが迎えて、家庭的な時間を提供します。

子ども食堂、学習支援、、、広がる支援の輪

■2015 年

2015年1月に「子ども食堂サミット2015」を開催しました。メディアにも取り上げられて、子ども食堂の取り組みが全国に広がるきっかけとなりました。

その後、某企業に「子ども食堂同士のつながりをつくるためにこども食堂ネットワークを創ってほしい」と提案し、全国こども食堂ネットワークのホームページが開設されました。

6 月には、「豊島子ども学習支援ネットワーク」が誕生しました。区内の全ての地域の子どもが無料学習支援を利用できるようにするには、無料学習支援の場を地域に点在させる必要があります。とくに小学生は家の近所でなければ通えません。豊島区では、それぞれの地域で無料学習支援を立ち上げたいという地域住民が現れ、その設立を WAKUWAKU でバックアップしてきました。また、以前から、社会福祉協議会主催の無料学習支援も行われてきました。これらの動きが結集して、豊島区福祉総務課の困窮者自立支援施策（豊島区社会福祉協議会受託）として立ち上げられたのが、「豊島子ども学習支援ネットワーク」、通称とこネットです。貧困の連鎖を断つために、地域に根ざして活動している無料学習支援団体のネットワークです。

11 月には二つの子ども食堂が誕生しました。池袋こども食堂と椎名町こども食堂です。「長年住み続けた家に住み続けたい」そんな母親の声を聞き、家主の村田まさこさんが退職金で古い家をリフォームすることに！「どうせリフォームするなら、地域の人が集まる場にしたい」と、家を開いてくださり、池袋こども食堂が誕生しました。

同時期に「椎名町こども食堂」がオープンしました。「夜の児童館」を利用している子どもに「友達を連れてきてもいい？」と聞かれました。みんなが友達を連れてきたら、たちまち人数が増えてしまいます。そこで、金剛院・蓮華堂のお寺で、地域の乳幼児親子も大勢参加できる子ども食堂が誕生しました。地下で食事をし、2 階で食事前に宿題タイム、食事後は遊びタイムを設けました。毎週約 80 名の子どもや親子づれがやってきて活気あふれる子ども食堂となりました。

■2016 年

2016 年 5 月には、「ほんちょこ食堂」をオープンしました。池袋本町プレーパークに関わる地域の青少年育成委員会会長の山本理事は、ご自身の病気完治をきっかけに、地域の仲間を募り、地域の高齢者も子どももちよこっと立ち寄れるほんちょこ食堂をスタートしました。「長年、地域の子どもに関わってきたけど、こんなに困っている親子がいるとは気がつかなかった。豊島区内に、もっともっと子どもの居場所があるといい」と山本理事は実感しています。

WAKUWAKU 主宰の 4 つの子ども食堂を始め、豊島区内に 9 つの子ども食堂が立ち上がったところで、2016 年 9 月に豊島子ども食堂ネットワークを設立しました。豊島区子ども若者課が事務局を担っています。情報交換とともに、立ち上げ支援もおこなっています。

ホームスタート・わくわく

この間、さまざまなケースに接するうちに、「なるべく子どもが小さいうちに親子とつながりたいね」という思いが強くなり、荒砥理事が中心となって2016年2月、新たに訪問型子育て支援事業ホームスタート・わくわくがスタートしました。研修を受けた地域の先輩ママや先輩パパが子育て中の親子の家に無料で訪問します。ママやパパのお話を聴いたり、一緒に家事をしたり、子どもと遊んだり、外出したり、傾聴と協働が基本となっています。待つ支援ではなく、届ける支援です。実績が認められ2020年度からは、豊島区の補助事業となりました。また近年は、外国ルーツの家庭訪問にも力を入れています。

■2017年

2017年4月にWAKUWAKUホームを開設しました。「子どもが泊まれる場所をつくりたい」との天野理事の思いから、一年がかりで物件を探しました。ひとり親家庭の子育ては大変です。急な出張、緊急入院、今日は鬱で食事が作れない、そんな様々なニーズに応じて柔軟に対応しています。思春期に一時的に親子が離れることで、ほっと一息入れることが出来ます。親戚のお家のような感覚で、地域の中に預けられる場所があれば、子育ては随分楽になります。

火曜日から土曜日までは居場所としてオープンしています。小学生から高校生まで、いろんな年齢の子どもたちがやってきて、宿題をしたり、ゲームをしたり、夕飯を一緒に食べて、遊んで帰ります。泊まっている子どもも共に楽しいひとときを過ごします。

■2018年

2015年、無料学習支援で受験サポートした子のお母さんから、制服代を工面できないと聞き、カンパを集めて制服代の一部をお祝いとして渡しました。

その話を聞いた某企業から、入学応援給付金に使う条件で200万円の寄附を受けることになりました。そこで2018年からWAKUWAKU入学応援給付金として、小中高校に進学する子どもにお祝い金をお渡ししています。そして、お渡しするときにヒアリングをして、伴走支援につないでいます。

2016年から長期休みにひとり親家庭への余剰食材を梱包・発送するプロジェクトを実施していましたが、2018年から目白聖公会（無料学習支援運営）、みんなの食堂（こ

ども食堂))や有志の皆さんと連携して「豊島おなかいっぱいProject」という取り組みを始めました。セカンドハーベスト(フードバンク)から提供してもらう余剰食材を、ピックアップ会場(目白聖公会、みんなの食堂の2拠点)に搬入して、区内のひとり親家庭等にピックアップに来てもらいました。またピックアップだけでなく、カフェのスペースを創りお茶を飲みながら、親同志の交流の場も設けることで、新たなコミュニティを共創しました。後に「としまパントリーピックアップ」と名称を変更し、活動を継続しています。

多文化としまネットワーク

外国ルーツの子どもの学習支援をする中で、困りごとは勉強だけでなく、在留資格に関することや、親に代わって行政への提出書類を作成しなければならないなど多岐に渡っていることがわかりました。

いろいろな規制の中で、手続きすることが多いことがわかりました。外国ルーツの子ども達の学びや暮らしをサポートするには、家族丸ごとのサポートが必要で、その家族のニーズに応えられるように多様な人々が連携しなければと感じました。

2018年秋、エポックフェスタにて多文化共生に向けてのイベントを開催しようと多団体に呼びかけた会議体が、その後多文化としまネットワークとなりました。外国ルーツの子ども支援に携わる団体、関心のある人で定期的に交流しています。

■2019年

豊島みんなの円卓会議

2019年、全ての人を取り残さない包括的で安心できるコミュニティ作りに、行政も、民間も、それぞれのやり方で取り組んでいます。もっとも、地域での活動はまだ各個人や組織がそれぞれ独自に取り組んでいる側面があり、有機的なネットワークを形成されていません。また行政と民間それぞれがお互いの活動を十分に認知し、活用し合うような関係も十分に形成されているとは言えません。

同じ志をもって活動をする行政・地域の人たちが、お互いの課題意識を共有し、より良い協力・連携関係を作り上げるため対話を目指す場として、2019年7月、豊島みんなの円卓会議を発案・企画し、第1回会議を開催しました。この会議は現在も年に2回開催しています。

海外にルーツをもつ子どもや家庭への関心

豊島区には外国ルーツの子どもたちが多く暮らしています。2019年は、食を介した異文化交流の場をきっかけにした、地域コミュニティでの共生を願い「ネパール子ども食堂」「

フィリピン子ども食堂」「ミャンマー子ども食堂」と銘打って多文化子ども食堂を実施しました。食の交流は、ことばの壁を越えて関係を創ることができる確信し、継続的に実施する予定でしたが、2020年以降はコロナ感染拡大により実施に至っていません。

コロナ禍の中で

■2020年

2020年2月末、全国の小中高校の休校宣言に伴い、3月から「としまフードサポートプロジェクト」を立ち上げました。2018年から実施してきた「としまパントリーピックアップ」のノウハウを生かし、さらに多くの無料学習支援や子ども食堂団体と連携してスタートしました。ソーシャルディスタンスを求められながらも、屋外拠点にて実施しました。

それ以来、毎月第3土日に13拠点にて、100名以上の地域住民や企業・社会福祉協議会・豊島区と連携して、ひとり親家庭や外国にルーツを持つ子育て困窮家庭等を対象に、お米5キロ、食材や衛生用品を手渡しし、小地域のつながりや顔見知りの関係を共創しています。

2020年3月から、子どもたちの学習環境は著しく変化しました。豊島区教育委員会は早い段階で全小中学校生にタブレットを配備しました。一方、高校ではオンライン授業を実施する学校が増えていましたが、「うちにはパソコンがないので、スマホで授業を受けている」という声がWAKUWAKUに複数届きました。そこで高校生対象に、ノートパソコンとルーターの無料貸与（ルーターの無料は1年間）をはじめました。高額なものです。子どもの学びの環境を守ることは、子どもの学習権の保障として重要です。我慢しないで欲しいという思いからスタートしたおせっかいです。

WAKUWAKU 勉強会のボランティアで外国ルーツの子どもと関わってきた学生が、2020年4月から「勉強を目的としない外国ルーツの子どもの居場所」を創る予定でした。コロナで一旦は計画延期となりましたが、2020年5月からオンラインによる実施に変更し「WAKUWAKU×ルーツ」（通称クロスルーツ）を立ち上げました。月3回ほど土曜日の18時から19時半、外国にルーツを持つ子ども達が、自宅からオンラインで参加しています。進路について外国ルーツの先輩に相談したり、おしゃべりやゲームを楽しんだりしています。この活動は、一般社団法人シャンティ国際ボランティア会が主催、WAKUWAKU が協力して運営しています。

2020 年 6 月に、東京都の居住支援法人認可を受け、WAKUWAKU すまいサポートをスタートしました。豊島区には空き家が多いことも課題の一つですが、空き家と困窮子育て家庭のマッチング、不動産会社への同行、公団住宅の申し込みサポートなど、子どもが「子ども部屋」を持てる住まい環境整備と、住み替え前、住み替え後の伴走支援を精力的に実施しています。

2020 年 9 月と 12 月には、豊島区の「コロナに負けるな！としま」医療・福祉支援寄付金で購入した、お米 5 キロをひとり親世帯に配布する事業を WAKUWAKU が受託し、官民連携協働の食料支援「ライス！ナイス！プロジェクト」を実施しました。豊島区の小学校区ごとにある区民ひろば 22 拠点にて、区内企業や住民延べ 500 名のボランティアで延べ 1,450 世帯の一人親家庭に、食料と区内の飲食店で使える食事券 1,500 円分を配りました。

2020 年コロナ禍、「孤独・孤立対策に取り組む NPO 等への緊急支援」として厚生労働省は「支援対象児童等見守り強化事業」を打ち出し、自治体が民間団体と協力して行う見守り事業に補助金を出すと発表しました。この事業は要保護児童対策地域協議会の支援対象児童等として登録されている子どもだけではなく、地域社会から孤立しがちな子育て家庭や妊婦、子育てに不安をもつ家庭等の子どもや妊婦を対象に、見守りを強化しようというものです。

不安な中で暮らしている家庭に魅力的なプレゼントを持って会いに行きたいという私たちの思いと要保護児童の見守りをしたいという豊島区がタイアップして、「地域がつながるプロジェクト」が誕生しました。家庭訪問するのは、民生児童委員や主任児童委員や青少年育成委員や保護司の有志、子ども食堂や無料学習支援で活動している 75 名のおせっかいさんです。

■2021 年

2021 年には豊島区が「子ども若者応援基金」を設立し、その基金により引き続き 2021 年度も 2 回のライスナイスプロジェクトを実施しました。

地域がつながるプロジェクトも、2021 年度は夏休みを含む 7 か月に渡り 8 回訪問し小地域でのつながりが密になりました。

2020 年 3 月から実施している「としまフードサポートプロジェクト」でシングルマザーの方から失業や減収についての困りごとが寄せられました。中には、「ハローワークの就労準備講座は条件が満たないし、民間のパソコン教室は高額で参加できない」という声もあり

ました。そこで、2021 年 4 月からは、収入アップや地域の企業に就労してもらうための試行錯誤が始まりました。ところが、就労紹介サポートを実施するには許可を得る必要があることが判明しました。早速、無料職業紹介事業の許可取得に取り掛かりました。

また、失業して WAKUWAKU フードサポートにアルバイトで関わっていたシングルマザーさんからの「いろいろ持ち帰ることができて、ゆっくりコーヒー飲みながらおしゃべりできるカフェができたらいいのに」との声がきっかけとなり、7 月からは毎月 1 回、シングルマザーが集い、おさがりの洋服を持ち帰るコーナーや、SDG s の学び合いや、ピアカウンセリングの場「としま SDG s カフェ」も開催しています。

パソコンスキルアップ講座の開設を機に、就労のスキルを身に着けて仕事もステップアップして欲しいという思いから、就労支援や再就職のサポートも行っています。

WAKUWAKU は、「子どもの貧困」をテーマに子どもの居場所を点在化してきましたが、コロナ禍では、フードサポート、親の就労支援やすまいサポートなどの活動に力を入れることになりました。

■2022 年

1 月「認定 NPO 法人」取得

前々から認定 NPO 法人の取得を目指していましたが、事務局体制強化、理事全員の意識共有などに随分と時を要しました。松宮理事が中心となって、ようやく、認定 NPO 法人を取得することが出来ました。

「地域の子どもの地域で見守り育てるまちづくり」を目指して、さらに前進する環境ができました。

4 月「無料職業紹介事業」許可証取得

コロナ禍、解雇になったという声が届く一方で、地域の企業さんから就労紹介の申し出がありました。地域の中で、就労のニーズとウォンツをつなぎたいね！その思いから無料職業紹介事業許可を取得しました。WAKUWAKU しごとサポートとして、すまいサポートと共に相談事業にも力を入れていきます。

WAKUWAKU2025
中期ビジョン

WAKUWAKU 2025（中期ビジョン）

1. はじめに
2. 私たちのゆずれないもの
3. WAKUWAKU 10 年間のあゆみ
4. WAKUWAKU が抱える課題
5. この 3 年間で私たちのめざすもの～WAKUWAKU 2025

参考：WAKUWAKU が考える現状認識～社会と豊島区を取り巻く状況

1. はじめに

2012 年 6 月 24 日、WAKUWAKU 号は「地域の子どもの地域で見守り育てよう！」の合言葉で、ゆるやかにつながった仲間とともに船出しました。2013 年には子ども食堂や学習支援、2014 年にはプレーパーク、2016 年にはホームスタート(家庭訪問型子育て支援)、2017 年には WAKUWAKU ホーム（宿泊機能をもつ子どもの居場所）、充実した居場所を創ってきました。

2020 年、新型コロナウイルスの蔓延を境に、これらの居場所の運営は窮地に立ちましたが、それぞれに感染対策を凝らしながら運営を続けています。一方で、感染拡大の影響を受けた子どもたちの生活基盤を守るため、毎月の食料支援・住宅支援・就労支援などの新たな事業が急拡大しました。そこで、活動が拡大し活発になっても WAKUWAKU 号が沈没しないために、2020 年から WAKUWAKU 号の修理計画を立て、2021 年はひとまわり大きく丈夫な WAKUWAKU 号にするための、大改修を行いました。

そして、3 年後の 2025 年に向かって、WAKUWAKU 号が目指す地域、社会について話し合い、ビジョンも策定しました。WAKUWAKU 設立から 10 周年の節目に、これまでを振り返り、WAKUWAKU 号の羅針盤「WAKUWAKU 2025」(中期ビジョン) が示す未来に向かって、多くの皆さまと共に、ゆっくりと遠くまで進んでいきたいと思っています。

理事長 栗林知絵子

2. 私たちのゆずれないもの

・子どもの最善の利益

私たちのアイデンティティでもある、子ども(胎児も含む)。子どもは大人に対して意見を言いにくい状況にあります。そんな子どもの声を私たちは大事にします。
私たちは、子どもの利益、福祉を一番大切に考えて行動します。

・WAKUWAKU 感

WAKUWAKU は、おもしろそう、やってみたいと思うときの心が躍る感覚です。
子どももおとなも^{ワクワク}WAKUWAKUする活動でありたいと思っています。
子どもが^{ワクワク}WAKUWAKUと好奇心の赴くまま考え行動し、失敗しても再チャレンジできる場を作りたい、という願いも込められています。

・誰をも受け止める

この地域にはいろいろな家庭があり子どもがいて、いろいろな悩みがあります。
WAKUWAKU は、どんな人からの相談か、どんな内容かによって選択・排除することなく、そのすべてに対して、友達や親せきのように親身になって話を聞いて一緒に解決策を考えたい、相談相手として信頼してもらえるようになりたいと願っています。

・おせっかい精神

おせっかい(お節介)、というと押しつけがましさを感じることもあるかもしれませんが、私たちの言うおせっかいは「節度ある介入」です。余計なことは言わない、しない、でも必要なことをするーそんなおせっかいをしていきます。

3. WAKUWAKU 10 年のあゆみ

- ・ 2012 年 06 月「豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク設立シンポジウム」開催
- ・ 2012 年 07 月「池袋 WAKUWAKU 勉強会」開始
- ・ 2013 年 03 月「要町あさやけ子ども食堂」開始
- ・ 2013 年 08 月 NPO 法人格取得
- ・ 2013 年 08 月「池袋 WAKUWAKU にほんご教室」開始
- ・ 2014 年 11 月「夜の児童館」開始
- ・ 2014 年 11 月「池袋本町プレーパーク」区からの委託事業として池袋本町公園内にて運営開始
- ・ 2015 年 01 月「こども食堂ネットワーク」設立に参画

- 2015 年 01 月「子ども食堂サミット」開始
- 2015 年 10 月「としま子ども学習支援ネットワーク」設立に参画
- 2015 年 11 月「椎名町こども食堂」開始
- 2015 年 11 月「池袋こども食堂」開始
- 2016 年 05 月「ほんちょこ食堂」開始
- 2016 年 08 月「子ども食堂をつくろう! ― 人がつながる地域の居場所づくり」
(明石書店発刊)
- 2016 年 09 月「としま子ども食堂ネットワーク」設立に参画
- 2016 年 10 月「ホームスタート」開始
- 2017 年 04 月「WAKUWAKU ホーム」開始
- 2017 年 12 月「WAKUWAKU 入学応援給付金」開始
- 2018 年 05 月「フードパントリー」開始
- 2019 年 08 月「としまみんなの円卓会議」開始
- 2020 年 01 月「フードサポート」開始
- 2020 年 06 月「WAKUWAKU すまいサポート事業」開始
- 2020 年 04 月「外国にルーツを持つ子どもたちを対象とする居場所事業」開始
- 2020 年 07 月「地域がつながるプロジェクト」開始
- 2022 年 01 月「認定 NPO 法人」取得
- 2022 年 04 月「無料職業紹介事業」許可証取得

4. WAKUWAKU が抱える課題

WAKUWAKU は、この 10 年で事業規模を拡大し、より広くより細部にアウトリーチできる団体になってきましたが、同時にさまざまな課題も浮上してきました。

① 組織として大きくなって全体が見えない

現在の WAKUWAKU の主軸となる 4 つの事業、そこからさらに細分化される各々の活動。それぞれの組織やその運営を回していく事に手一杯で、他事業がどんな活動をしているかを細部まで把握することができていません。

② 他の事業グループとの連携が不足している

WAKUWAKU 内での各事業同士の交流が少ない為、連携が取りにくくなっていることがあります。子どもや親子などを他の事業につなげる際にお互いの活動のメンバーが顔の見えるやりとりをすることで、組織としての信頼感を増すことにもなるはずです。

③ ボランティアコーディネートが必要である

活動の大部分をボランティアに大きく支えられている WAKUWAKU ですが、参加しているボランティアへのフォローが足りているとは言えません。WAKUWAKU の活動理念を知ってもらい、研修や講座、交流会を開くなど、ボランティアそれぞれの思いや個性を生かしながらも、もっと地域を巻き込んでいくことができるボランティアコーディネートが必要です。学生ボランティアに対しては、卒業後もつながり続けられる仕組みと新たな学生ボランティアを次々受け入れ活躍してもらう体制が不十分です。

④ 広報活動のマンパワーが不足している

活動内容の規模や重要度に比べて、情報発信する力が不足しています。より多くの社会的評価を得られるためには、それぞれの事業のメンバーが、現場での活動の合間をぬっての発信では、マンパワー的にも限界です。事務局体制の充実と共に組織全体で考えていく課題です。

⑤ 「核となる人物がいなくなったら・・・」という不安

WAKUWAKU の理事長に始まり、各事業の中核の人物がもし急遽活動できなくなったとしたら、体制の立て直しや活動の維持が困難な事業・組織が少なくありません。なぜなら、中核となるリーダーの後に続く人材の確保や育成ができていなかったり、リーダーが大部分担っている仕事を他のメンバーに引き継げる形に整理できていなかったりするからです。危機管理上も早急な改善が必要です。

5. この3年間で私たちのめざすもの ～ WAKUWAKU 2025

「おせっかいの輪をひろげる」

WAKUWAKU は、誰もが SOS を発信することが出来て、それを受け取り、解決できる社会を目指しています。そのはじめの一步は、困っている人がいたら一声かけてみようというような、「おせっかい（お節介＝節度ある介入）」な行動です。WAKUWAKU では、困っていることがあったら気軽に相談できるような「おせっかいさん」を地域に増やし、おせっかいさん同士がつながっている、おせっかいさんも行政や相談窓口とつながっている—そんな地域が網の目のようにつながっていく仕組みを構築していきます。WAKUWAKU の活動を通して、地域に住む人の問題をおせっかいで支援し、その支援を受けた人、またその行動を見ていた人が支援する側へと回るというような、「おせっかい」精神を持った人が循環し広がっていく未来を目指します。

① 「おせっかいさん」を増やすためにできること

- ・活動の参加者と「おせっかい」精神を共有します
- ・地域の企業や大学等に参画を促し、多セクター・多世代の参加を視野に入れます
- ・一過性のもので終わるのではなく、継続的な取り組みになる仕組みをつくります

②「おせっかい」の質の向上

- ・活動によっては事前に研修の場を提供し、活動の背景等を理解してもらいます
- ・活動後にアンケートなどを取り、それらを共有し活動がよくなるように努力します
- ・専門家と連携した取り組みを進めます

「WAKUWAKU 基盤強化」未来につなげる組織づくり

① WAKUWAKU 内のネットワークづくり

WAKUWAKU で活動する自分たち自身が、WAKUWAKUして活動ができるよう、組織内部のネットワークづくりに取り組みます。

- ・事業間のコミュニケーションを活発に

コミュニケーションツールの有効活用、各事業スタッフが一堂に会するイベントの開催など、お互いの活動の情報共有や意見交換を活発にし、事業間でつなげる機会を積極的に作ります。

- ・スピーディに課題解決するための情報共有と情報整理

それぞれの現場で起きている課題に対し、情報共有と情報整理ができる仕組みを作り、組織の協働連携によって、スピーディな課題解決ができる体制を作ります。

- ・失敗しても思い切りやれる環境づくり

これまで WAKUWAKU では、困難を伴うチャレンジも、仲間と一緒に取り組むことで、大変さが楽しいに変わるチャレンジとなってきました。

失敗しても思い切りやれる、WAKUWAKUしながら活動に取り組むことができるよう、お互いをフォローできる環境を作ります。

② WAKUWAKU の活動を受け継ぐ、人材育成の取り組み

「おせっかい精神」というミッションを受け継ぐ、WAKUWAKU の未来をつくる人材育成に取り組めます。

- ・スタッフの学びの場、研修を充実させる

自身が所属する事業に関する研修のほか、外部研修に参加できる機会を増やします。スタッフの学びの場をつくることで、自身、団体の成長を促し、社会に広い視野を持てる人材を育成します。

- ・若い世代が参加できるような働きかけ

WAKUWAKU の活動を通して社会課題を知ってもらう出張講座などを各種学校に働きかけ、興味を持った若い世代が活動に参加できる体制を作ります。支援活動のボランティアだけではなく、NPO の運営を学ぶことができるインターン制度の充実を図ります。

- ・継続できる雇用を生み出す

スタッフの成長とやりがい創出に向けた働きかけとともに、安心して活動が続けることができるよう、財政面と労働面で働きやすい環境作りに取り組みます。

③ 認定 NPO としての WAKUWAKU の財政活動の取り組み

安定した資金の確保を目指し、認定 NPO を取得した団体としての寄付活動の強化と、事務局体制の強化を行います。

- ・これまでの資金活動の拡大と、財政活動を支える事務局体制の強化

「子どもの最善の利益」という目的に合った助成金、補助金の調達など、これまでの資金活動に加え、新しい事業の資金調達、さらなる支援の拡大に取り組みます。

同時に WAKUWAKU のさまざまな財政活動を認定 NPO として適切に管理する事務局体制を強化します。

- ・寄付向けの活動の強化

認定 NPO としての寄付活動を強化します。これまでの寄付者への働きかけの強化のほか、応援したい事業を個別に支援できる寄付メニュー、新しい事業の立ち上げの寄付など、寄付メニューの充実を図ります。また、社会活動でできる SDGs を企業に働きかけ、企業寄付の拡大を目指します。

- ・広報活動の強化

WAKUWAKU の活動を広め、支援者とつながる広報活動を強化します。HP を拡充し SNS を活用して、寄付による社会課題解決の共有、寄付効果を示す具体的な活動報告や、支援者への感謝など、支援者とつながる丁寧な発信をしていきます。

【参考】WAKUWAKU が考える現状認識～社会と豊島区を取り巻く状況

■社会を取り巻く状況

① コミュニティの希薄化

近代国家の成立とともに国家の役割が大きくなり、住民自らが地域の課題と向き合わず、行政のサービスに期待するようになりました。行政依存により、地域コミュニティが衰退していきました。また、産業の発展に伴い、都市化が加速し、同時期に広がった核家族化も地域コミュニティの衰退に拍車をかけました。地域の実態によって、地域コミュニティの現状は異なりますが、都市部においては人口が多く、経済活動が活発な一方で、長期定着人口は少なく、地縁的なつながりができにくい状況にあります。

① -1. 産業や経済

中心市街地の商店街が衰退し、シャッター通りが目立つようになりました。それに伴い、地域コミュニティへのコミットメントが強い自営業者や個人商店の減少が進んでいます。

① -2. 街の構造

大型・高層マンションなどの都市住宅の構造や、職場・住居・余暇活動の空間が分離され、コミュニティの生まれにくいものとなっています。また、急激な都市化、自動車社会化を背景に、集う場所・遊び場として安全な場所が減っており、地域の人が自然にふれあう機会の減少につながっています。

① -3. 人づきあいや地域活動に対する認識

価値観の多様化、プライバシー意識の高まり、地域への愛着・帰属意識の低下などにより、隣近所との付き合いを好まない人が増加しています。特に都市部では、対価を払えば手軽にサービスを受けられるようになってきていることから、地域のコミュニティにわざわざ入る必要がないのも要因の一つです。そのため、地域コミュニティの役員を引き受ける人の減少と地域コミュニティのルールに従わない人の増加も懸念されています。

総務省「地域コミュニティの現状と問題」

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/community/pdf/070207_1_sa.pdf

② 家庭や地域の子育て力の低下

親と子の核家族世帯の増加に加えて、隣近所に誰が住んでいるのかわからない現代社会では、家庭の子育て力が以前よりも低下しています。乳幼児を抱えた若い夫婦が周囲から適切な支援を受けられない場合、特に母親が疲労感や孤立感を抱く傾向にあり、育児ノイ

ローゼや児童虐待に繋がる場合もあります。親の孤立が子どもの孤立を生んでいる現状が考えられます。

内閣府「平成 16 年版 少子化社会白書（全体版）（3）家庭や地域の子育て力」

https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2004/html_h/html/g1223310.html

③ 所得の格差

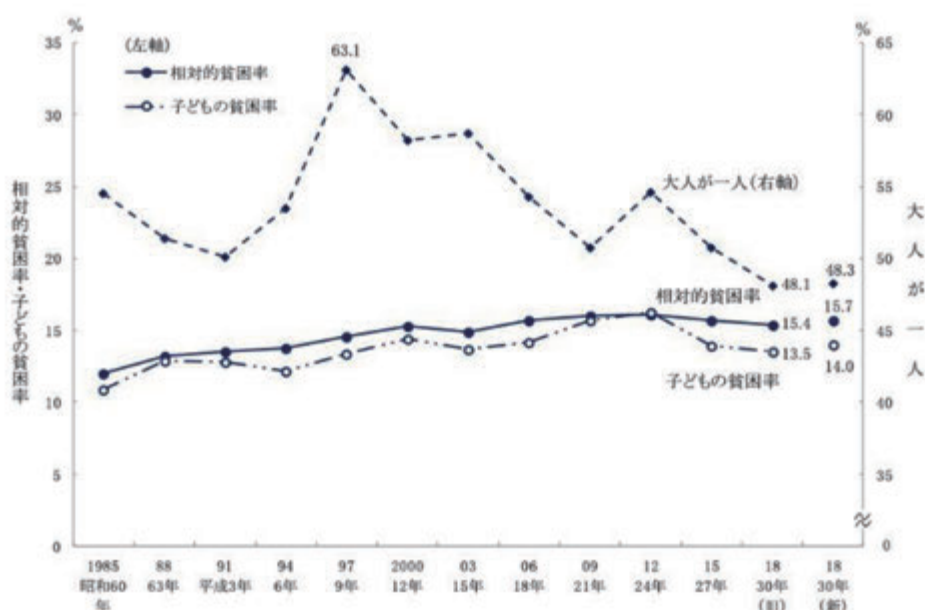
格差を示す指標のジニ係数。0 に近いほど所得の分配ができており、1 に近いほど 1 つの世帯が独占していることを指しますが、2017 年の日本は、初所得ジニ係数が 0.5594、再分配所得ジニ係数は 0.3721 となっています。2014 年からは改善傾向にあるものの、依然として高い状態です。貧困層として特に増加しているのが、高齢者層とひとり親家庭で、ひとり親家庭は年々増加しています。

厚生労働省「2004 年所得再分配調査 報道発表資料」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/96-1/h29press.pdf>

④ 子どもの貧困

厚生労働省によると、日本の子どもの貧困率(2018 年)は 13.5%、ひとり親家庭の貧困率 48.1%と、先進国の中でも最悪な水準となっています。子どもの 7 人に 1 人は貧困というデータとなり、貧困に追い詰められた親が虐待や育児放棄に至るケースも多くあります。



厚生労働省「2019 年 国民生活基礎調査の概況 II 各種世帯の所得等の状況」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa19/dl/03.pdf>

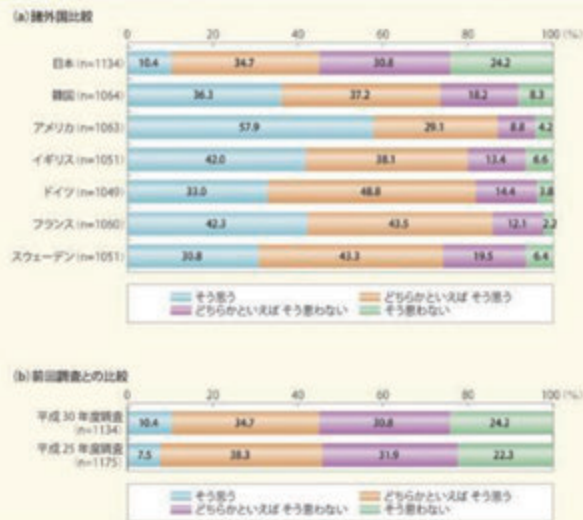
⑤ 子どもの自己肯定感

2018 年度の内閣府の調査によると、「自分自身に満足している」との項目で「そう思わない」「どちらかというと思わない」と答えた日本の子ども・若者の割合は 55.0%、「自分には長所があると感じている」との項目では「そう思わない」「どちらかというと思わない」が 37.7%にものぼります。これらは諸外国と比較しても高い水準です（隣の韓国は 26.5%、25.7%）。また、「自分は役に立たないと感じている」という項目においては、「そう思う」「どちらかというと思おう」と回答が過半数を占める（51.8%）ことから、今後の社会活動にも影響を及ぼすことが懸念されます。

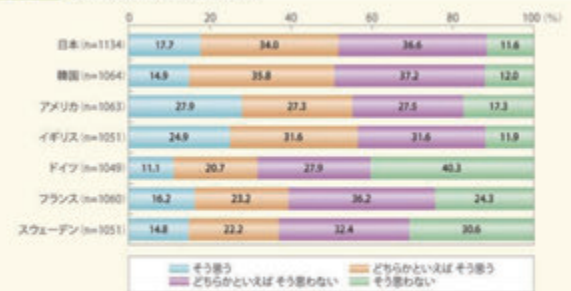
内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（2018 年度）」

https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/r01gaiyou/s0_1.html

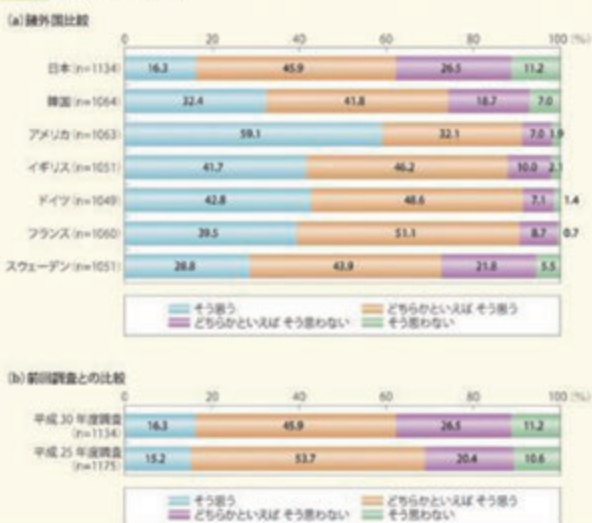
図表 3 自分自身に満足している



図表 5 自分は役に立たないと感じる



図表 4 自分には長所がある



■豊島区を取り巻く状況

① 2012 年セーフコミュニティを取得

世界保健機関（WHO）が推奨する事故や暴力・ケガのない安全・安心なまちづくりに取り組むセーフコミュニティには国際認証制度があります。豊島区は、2012 年 11 月、世界で 296 番、日本で 5 番目、東京では初めて、この国際認証を取得しました。

セーフコミュニティ：世界保健機関（WHO）が推奨する安全・安心まちづくりの国際認証制度

豊島区 HP より <https://www.city.toshima.lg.jp/022/bosai/026636/index.html>

② 消滅可能性都市から SDGs 未来都市へ

そもそも消滅可能性都市とは？

有識者らでつくる民間研究機関「日本創成会議」が 2014 年に発表したもので、「2010 年から 2040 年にかけて、20～39 歳の若年女性人口が 5 割以下に減少する市区町村」と定義されています。23 区では唯一、豊島区だけが指摘されました。

消滅可能都市からの脱却・躍進！

豊島区は、消滅可能都市からの脱却を図り、「子どもと女性にやさしいまちづくり」「高齢化への対応」「地方との共生」「日本の推進力」の 4 つを柱に据え、ピンチをチャンスにすべく、持続可能なまちづくりを実行してきました。

そして SDGs 未来都市へ

2020 年 7 月には、内閣府により豊島区は「SDGs 未来都市」「自治体 SDGs モデル事業」の両方に選定されるという躍進を遂げました。現在、「としま SDGs チャレンジブック」を作成し、身近なことから取り組めるよう、わかりやすく持続可能なまちづくりで、進化しつづける新たな豊島区を目指しています。

③ 豊島区の所得格差とひとり親

豊島区が 2016 年に実施した「子供の生活実態調査」では、豊島区の小学 5 年生の 4.5 %、中学 2 年生の 7.2 %、16-17 歳の 6.1 %が困窮層で、周辺層と合わせて 2 割の子どもたちが生活困難層でした。ひとり親世帯の方がふたり親世帯に比べて生活困窮度が高い傾向が見られ、どの学年でもひとり親世帯の約半数が生活困難層にありました。

④ 外国にルーツをもつ家庭への支援が届きづらい

2022 年 2 月 1 日現在、豊島区の人口総数は 283,184 人、うち外国人数は 24,097 人で約 11%を占め、9 人に 1 人は外国人という割合になります。外国にルーツをもつ家庭に支援が行き届きづらい理由として、以下の理由があげられます。

- ・必要な情報が届かない：特に英語、中国語、ハングル（韓国・朝鮮語）以外の言語を使う区民や来日間もない外国籍等区民に必要な生活情報が十分に届いていません
- ・地域の住民とのあつれき：来日して間もない外国籍等区民は、日常生活に関わるルールや制度を理解し、さまざまな手続きを行うことが難しい状況にあるため、地域住民とのあつれきが生じることがあります
- ・地域と共生するルートがない：同じ国籍等の区民によるコミュニティだけで生活や仕事が完結するため、地域と交流・共生する必要性を感じづらい状況が一部にあります

⑤ 子どもたちの居場所が少ない

東京都都市公園等区市町村別面積・人口割比率表（2021 年 4 月 1 日現在）によると、豊島区は 1 人当たりの公園面積が 0.78 m²で、23 区中最下位で一番少ない数値です。23 区平均は 4.86 m²なので、比較するとどれだけ豊島区の公園が少ないのがわかります。区民ひろばや中高生児童館「ジャンプ」、子ども食堂などの居場所もありますが、十分とはいえません。



十周年記念・認定NPO法人取得記念

地域の子どもの地域で見守り育てたいという仲間が、有機的で緩やかなつながりをつくろうと呼びかけ発足したWAKUWAKUが10周年を迎えました。

この10年は、緩やかなつながりから、地域の人と人が共感し、さまざまな居場所や活動がうまれた10年間でした。また10年目にして、やっと認定NPO法人に成長しました。

このたびWAKUWAKUの活動に関わっているみなさん、活動を見守り応援してくださるみなさんとの交流会「WAKUWAKU祭」を開催したいと思います。

WAKUWAKUの活動には、実に多様な方々が携わっています。多様な人と人が交流し、互いに元気になるためのお祭りです。ご参加お待ちしております。

日時

2023年2月5日(日)

10時～11時45分

(9時30分開場)

場所

IKE・Biz 6階 多目的ホール

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-37-4

(池袋駅西口より徒歩約10分、南口より約7分)

参加費

無料



お申込みはこちらのQRコード
よりお願いします。
(難しい場合はメールにてご連絡下さい)

主催: 認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

TEL: 050-5526-1229

(10:00～17:00 土日・祝日を除く)

E-mail: info@toshimawakuwaku.com



